

子ども家庭支援演習 ルーブリック

評価項目		評価基準				
		S	A	B	C	D
1	子育て支援の意義と原則、倫理について説明できる。(B)	子育て支援の意義と原則についての確かつ説得力をもって説明できる。倫理を深く理解し事例検討の際に適切に活用・応用できる。	子育て支援の意義と原則についての確に説明できる。倫理を理解し事例検討の際に適切に活用できる。	子育て支援の意義と原則について概ね的確に説明できる。倫理を理解し事例検討の際に活用できる。	子育て支援の意義と原則についての説明の一部に不適切な部分がある。倫理の理解が表面的で事例検討の際に活用困難である。	子育て支援の意義と原則についての説明が不適切である。倫理の理解が不十分で事例検討の際に活用できない。
2	保育者の行う子育て支援の特質と専門的態度について理解できる。(B)	保育者の行う子育て支援の特質と専門的態度について保育者の専門性やこれまでの学びと関連させて深く理解している。	保育者の行う子育て支援の特質と専門的態度について保育者の専門性と関連させて深く理解している。	保育者の行う子育て支援の特質と専門的態度について保育者の専門性と関連させて概ね理解している。	保育者の行う子育て支援の特質と専門的態度についての理解が表面的である。	保育者の行う子育て支援の特質と専門的態度についての理解が不適切である。
3	多様な視点からのアセスメントを行い支援計画を立案できる(C-1)	アセスメントに必要な多様な視点に自ら気づき適切に実行できる。目標と方法を適切に関連付け、実施に十分に配慮した計画を立案できる。	アセスメントに必要な多様な視点に自ら気づき適切に実行できる。目標と方法を関連付け、実施に配慮した計画を立案できる。	アセスメントに必要な多様な視点について示唆があれば気づき実行できる。目標と方法を関連付けた計画を立案できる。	アセスメントに必要な多様な視点を提示されて実行できる。目標と方法を関連付けた計画の立案が一部不適切である。	アセスメントに必要な多様な視点を提示されても実行できない。目標と方法を関連付けた計画の立案が不適切である。
4	多機関および多職種との連携を理解できる(C-1)	多機関および多職種の機能や専門性を適切に踏まえ連携を十分理解している	多機関および多職種の機能や専門性を適切に踏まえ連携を理解している	多機関および多職種の知識を踏まえ連携を理解している	多機関および多職種の一部不十分な知識をもとに連携を理解している	多機関および多職種の知識が不適切であり、連携の理解に不足がある

\* 課題提出が正当な理由(病気や事故等)なく遅れた場合は課題得点の2割を減点する